（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4790100327		
法人名	有限会社ケアライフ武上		
事業所名	グループホームノーマライ心の花首里		
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町３－１３５－２		
自己評価作成日	平成２４年１月１２日	評価結果市町村受理日	平成２４年４月６日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4790100327&SCD=320&PCD=47

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目１０－２５　１Ｆ
訪問調査日	平成24年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

元々民家であったので、内外共グループホームで最も大切とされる家庭的な雰囲気が保たれ、入居者と職員が「明るく、楽しく、笑顔で共に暮らす」というホーム理念に沿って常に前進するという気持ちで行動しています。又、ホームの周りの環境作りにも力を入れており、季節の草花、野菜等を植え、入居者が身体全身（五感）で日々の生活を感じ取る事で人間らしく、ホーム名の由来である普通（ノーマライゼーション）に暮らす事により、のんびり、穏やかに生活が出来るように対話を重視しながら取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開所から1年を迎えた当事業所は、地域密着型サービスについて熟知した代表者と共に、運営推進会議等を通し行政や地域の民生委員等と連携し、事業所の周知や認知症高齢者への理解に繋げ、地域ミニデイ等で住民と交流している。2階建ての民家を改装した事業所は、エレベーターやテラスを設置し、共用空間の家庭的な雰囲気の重視や庭を活用し季節感を取り入れる等、入居者が安全にゆったりと暮らせるような環境作りを行っている。また入居者の尊厳や権利を尊重したケアの実践に向けて、勉強会や日々の記録に努め、入居者や家族との対話を重ね医療連携を図りながら個別ケアに取り組んでいる。職員は、入居者に明るく接し、日々の食事も「美味しい」と満足の声が得られている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るく楽しく笑顔で共に暮らす、そして人として心の花を咲かそうを理念とし日々のケアに活かしている。理念に基づいたケアを毎月のカンファレンスなどで話し合うようにしている。	事業所開所時に代表者が作成した理念は、常に職員が意識できるよう掲示し、管理者や職員は代表者と定例会等で共有している。職員は、対話を重視した入居者個々に寄り添うケアや地域との関係作りに取り組んでいるが、地域密着型サービスを捉えた理念についての検討はこれからとしている。	地域密着型サービスの意義や役割を踏まえた理念について、全職員で検討して行く事に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回地域の方が集まる町民会館へ出かけ、地域の方と一緒に体操やレクに参加している。	事業所は、入居者と散歩時に住民に挨拶し、住民から果物等の差し入れや事業所で育てた野菜をお裾わけする等交流している。また入居者と福祉まつりや町民会館のミニデイ等に参加している。地域のまち作り協議会に代表者と管理者が参加し、地域の医療や福祉マップ作りに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が集まる町民会館へ利用者と一緒に管理者が同行し、体操やレク後、お茶会での会話の中で地域の方に認知症の人を理解してもらう様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの活動内容を報告し、また地域での活動内容等も出席者が意見を出してもらい、より利用者が地域でつながりが持てる方法等を提案してもらい、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は、行政担当者や家族、地域代表者等が参加し2か月毎に開催している。会議では、事業所から運営や活動状況、事故報告等を行い運営の透明性を図っている。委員から地域住民が参加する町民会館の活動について情報提供を受け、入居者と参加し地域交流に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	那覇市ちゃーがんじゅう課の職員が運営推進会議のメンバーであるので、ホームの実情や困った事等を相談するように努めている。	運営推進会議以外でも日頃から電話や窓口を訪ね、行政担当者に事業所の実状を伝えるとともに各種手続き等で相談し助言を得ている。また、市のホームページに事業所の紹介を掲載して入居希望者への情報提供に繋げる等連携し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切していない。全職員も正しく理解している。ドアにチャイムを取り付け、鍵をかけなくても済むように工夫している。	「身体拘束防止の為の指針」を作成して掲示し、職員採用時に個別にマニュアルを配布している。また、言葉による抑制や玄関の施錠も拘束にあたることを勉強会等で理解し、入居者が「家に帰る」と外に出る時は職員は同行している。家族には入居時にリスクについて説明し理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待は人間としてあってはならないことと認識し、認知症の勉強会、カンファレンスを通して全職員に代表者自ら、特に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、日常自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会があり、理解している。必要性がある利用者に対してはそれを活用できるように支援すると共に職員にも指導している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に納得していただけるまで十分な説明を行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見は毎日きちんと聞いている。御家族は、面会時などで直接苦情などあれば聞くように努めている。	入居者の意見等は、日々のケアを通し対話や行動等で把握している。家族に対しては、家族会で意見や情報交換の機会を設けたり、訪問時や行事開催後に感想を求める等直接声を聞いている。家族から「入居者と昼食を共にしたい」等の要望を反映できるよう努めている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや面談などで直接聞くのみならず、必要に応じて常に個別面談が出来るようにしている。	職員は、毎月所定の書式に入居者の状況や気付き、事業所への要望等を記入して管理者に提出し、定例会で代表者も交えて検討している。職員から、調理器具の提案を受けてミキサーや圧力鍋を購入し、入居者の「美味しい食事」の声に繋げている。また、行事開催後は全員で検証を図り次回の開催に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員本人の希望の勤務体制で社会保険にも加入出来るようにし、個々の努力等を把握、評価する事で、向上心を持って働ける環境としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員個々の能力を把握し、外部研修を受ける機会を設けたり、内部にて月1回ｶﾝﾌｧﾚﾝｽを実施参加し、職員の不安、迷いを解消し、安心して働けるよう職員を育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、近隣の同業者の情報やネットワーク作り等を提供し、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人とは種々の要望・不安等を時間をかけて聞く機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様に御家族とも十分に話し合う機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族が今、どういう支援を望んでいるか見極めるように努めている。また、入居する時に不安があれば、御家族と連絡・相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「笑顔で共に暮らす」事を理念とし、その実現のために日々努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人・御家族をどのような関係を築くべきかを話し合いながら支援している、又、御家族がいつでも来やすいように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの家具や写真等を居室に飾ったり、御家族や友人などが来やすいように配慮している。	入居者の地域社会との関係性は、生活歴や趣味を含め、本人との会話や家族から情報を得て把握している。サークル活動で合唱団時の友人や知人、親戚等の訪問を歓迎し、入居者との関係継続に努めているが、今後は、ふるさと訪問等の支援にも取り組みたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、孤立しないように、一緒に生活を送れるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要な場合は相談などを受けている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人を大切にすることをモットーにして、希望や意向の把握に努めている。	入居者との関わりの中で声かけし、希望や意向の把握に努めている。表出が困難な場合は表情や行動、頻繁に訪問する家族からも協力を得て、個々の思いを引き出すよう工夫している。家族と共に食事をしたり、好きな音楽が楽しめる環境を作る等、入居者の安心した暮らしに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活歴は入居時や、その後必要に応じて、御家族や、御本人と話すようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御本人や御家族から得た情報を基にして、日々のケアに活かせるように職員間や毎月のカンファレンスで話し合いながら支援している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケアの集大成として、ケアプランがあるとの考え方で、日々の情報共有をし、毎月のカンファレンスを基にしてケアプランを作成している。	毎月ミーティングやカンファレンス会議に全職員が参加し、入居者の状況確認や課題について検討後、入居者や家族、管理者が参加して意向を確認し介護計画を作成している。職員は、管理日誌等の記録に努め、6か月毎に定期的な見直しを行うとともに状況の変化時は随時に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の異変などを個別記録・管理日誌に記録し、申し送り連絡帳に記入し、情報を共有して毎日のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な場合は、その都度話し合いながら介護計画を修正している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・地域の方々・ボランティアとは協力しながら支援している。必要に応じて警察や消防とも協力して支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診・受診の付き添いなどの支援を行っている。	入居者や家族と相談し、全員が協力医療機関(訪問診療)の医師を、かかりつけ医として受診している。週1回の訪問看護と月2回の訪問診療時は、情報提供等の支援をしている。精神等他科受診時は、かかりつけ医と相談して管理者が同行または代行し、結果は家族に電話で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師や、かかりつけ病院の看護師と連携し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院に向けて、入院時は情報交換や相談に努めている。本人の面会時に担当医・担当看護師に本人の様子が聞けるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人、御家族が希望すればターミナルケアも行う。そのために医療機関とは充分に話し合いを持つように努める。	事業所として、医療連携体制指針や重度化対応、終末期ケア対応指針を作成し、職員間で共有している。終末期ケアについては、入居時に対応方針について入居者や家族に説明し同意を得ている。協力医と職員は連携を図り、入居者や家族とは随時、意思を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当については、その都度職員に教育している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を置き、消防訓練は年に2回実施している。	事業所内に災害時の通報機器等を整備し、消防署協力の下で避難訓練と自主訓練を実施している。訓練は年2回取り組んでいるが、地域住民の参加には至らず、また、いずれも日中を想定して実施している。災害時に備え、食料等を備蓄している。	訓練は年2回実施しているので、昼間のみでなく夜間を想定した避難訓練への取り組みと、地域住民の協力を呼びかけてほしい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳を大切にするケアを日々心がけている。	入居者一人ひとりの尊重とプライバシーの保護については、契約書で権利を明示し、職員はケアの基本として取り組んでいる。また、入居者の主体性を尊重し、押しつけにならない声かけや意向に基づいた個別対応を心がけている。個人情報ファイルはキャビネットに鍵をかけ保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いを大切にし、御本人の思いを率直に述べることができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のご要望を聞きながら、その日のケアを工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容は訪問や、御家族が御本人が以前から利用していた所で行っている。身だしなみや服装も、御本人の希望を聞きながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のご希望があれば取り入れ、御本人のレベルに応じて、一緒に準備や、片づけを行っている。	食事は、入居者の好みを活かした献立や庭の野菜を利用しながら、事業所で調理している。入居者は、個々の力に応じ、下ごしらえや片づけ等に参加している。小鉢に彩り良く盛り付け、目でも楽しめるよう工夫している。家族も訪問時に入居者と一緒に食事を楽しめるよう、有料で提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の献立を記録し、バランス良く栄養が取れて、1日に必要な量や水分量が確保できる様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時、食前のうがい、食後の口腔ケアを御本人にやっていただき、できない方は介助して行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間以外オムツは使用していない。各自の排泄パターンを把握し、適切な支援をしている。	排泄チェック表を活用して個々の排泄パターンを把握し、日中はリハビリパンツやパットを使用してトイレでの排泄を支援している。夜間は、ポータブル使用が1名とオムツ使用の2名以外は、1時間おきに巡視しトイレへの誘導に繋げている。失敗時は自尊心に配慮しながら、浴室等へ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の面での工夫や、起床時の水や、牛乳を補給している。毎日体操をするなど、個々に応じた予防を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日はほぼ決めているが、希望があれば入浴できるように配慮している。入浴時間も御本人の希望に沿って実施している。	入浴は、曜日や時間帯等、入居者個々の希望や身体状況に応じて柔軟に支援している。浴槽使用も対応可能である。また、同姓介助を基本に心がけているが、勤務体制上男性職員による異性介助の場合には、その都度了解を得て対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに配慮し、その日の健康状態にも気を配りながら日中の休息や安眠が取れるように実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類、その目的については、既往症とも、全職員に教育している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活リズムに合わせて、リズムや趣味等を活かした支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外食等を実施している。又、月2回の町民会館利用を地域の人々の協力を得ながら行っている。	入居者は、日常的に近所への散歩や、庭で野菜や果物の収穫や近所の方と収穫物の交換や外気浴を楽しんでいる。月2回は町民会館のミニデイで合唱等に参加している。ホテルでの敬老会や季節の花見やドライブ等は、家族と協力して出かけている。個別に法事等への送迎も支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金の管理は御家族や職員が行っているが、買い物などには希望の物が買えるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人と御家族が希望すれば電話で話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改装の建物なので、ホーム回りに庭があり花壇や畑を作り、草花や野菜作りを行っていて、季節感を感じることができる。室内の共有スペースも家庭的で居心地よく過ごせている。	季節の花や野菜等を植えた庭は、居間から眺めたり収穫の喜びや気分転換の場となっている。テラスは入居者等がティータイムを過ごせるようテーブルや椅子を置き、室内には観葉食物もあり、温度や採光の良い環境となっている。地域交流室には入居者が自由に演奏できるようにオルガンを配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員で一つのテーブルを囲んで座るリビングと別にフロアがあって、個人個人で好きな事をして過ごせる居場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人や御家族が希望する物を持ち込んで、本人が居心地良く過ごせる生活空間を作り出している。	居室は1階に3室と2階に6室あり、ベッドと収納棚を備え付け、ベランダへの出入りができる所もある。家族の協力を得ながら、馴染みのテーブルや椅子、タンス等を持ちこみ、家族の写真や民芸品等入居者個々の思い出の品を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰なケアをしない様、一人ひとりの「できること」を活かすように、常に言葉かけを工夫し、安全で、できるだけ自立した生活が送れるようにしている。		